蜘 蛛 3 種 の 採 集 記 錄

安 念 嘉 一

(富山縣立富山中學校)

筆者は昭和13年春以來,富山縣內の蜘蛛採集を思ひ立ち室內に校庭に山に野に,蜘蛛集めを始めた。何等の豫備知識もなく,參考書も有せざりし爲,全部を岸田久吉先生に送附して同定を請うた。公務に御硏究に御多忙の先生は直ちに筆者の願ひを御容れ下さつて同定の返書を戴いた。かくて昭和13年には71種を,昭和14年には23種を,昨昭和15年には更に13種を追加し,眞正蜘蛛21科52屬107種に達した。Acta Arachnologica Vol. V, No. 2 に94種の富山縣產蜘蛛目錄豫報を發表し又,富山縣博物學會硏究會に3回に亘つて報告した。其の間岸田先生によつて5種を新種なりと斷定され命名下さつた中の3種について採集記錄を同志諸賢に報告し御參考に供したいと思ふものである。尙此の採集は筆者の前任地富山縣立魚津高等女學校を中心として行つたものである。執筆に當り岸田先生に滿腔の謝意を表するものである。

I *Oedothorax anneni* Kishida (MS.)

アンネンムナアカグモ (第1圖)　　　サラグモ科

1. 形 態

體長 2mm. 頭胸部 1mm. 腹部 1mm. 第一脚 3mm. 第二脚 3mm. 第三脚 2.5mm. 第四脚 2.5mm.

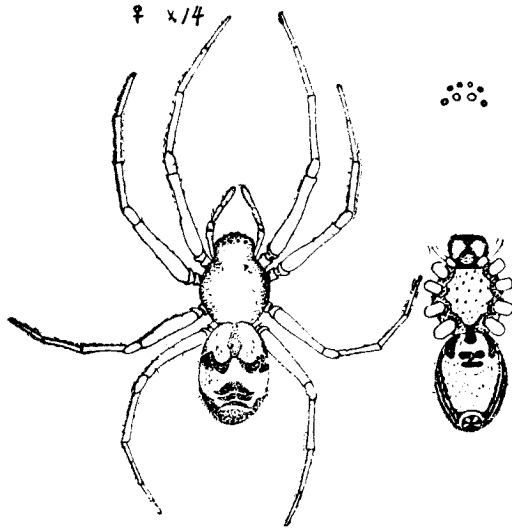
頭胸部は濃褐色にして平滑,中凸,胸板も濃褐色にして凹斑散在し粗毛生ず。單眼は2列8個,平行にして兩列共稍ゝ前彎し,第1列は第2列に比し稍ゝ小なり。腹部背面は黃褐色,楕圓形,中央部及び後部に第1圖の如き黑色の特異なる斑紋あり,腹下面も黃褐色,紡疣は6個,腹部は稍ゝ扁平にして粗毛を生ず。

2. 採集月日及び採集地

昭和13年12月12日	富山縣下新川郡上中島村吉野	1 ♀
昭和14年11月25日	〃 魚津高女校庭	1 ♀

昭和15年10月31日　　〃　　1♂

3. 採集記錄

昭和13年12月12日，冬季北陸には珍しい朝來の快晴に全校生徒を下　中新川郡境を流れる早月川の月形橋に遠足を行つた。川の堤防に坐し晝食を喫し終つて足下の石を動かして見ると赤い小粒の蟲が動いてゐるので早速豫め用意してゐた管瓶をポケツトより出して之を收めた。歸校後，解剖顯微鏡で見ると未だ見た事のない蜘蛛である。直ちに寫生して標品は翌年採集せし蜘蛛と共に岸田先生に同定を請ひし所　意外にも新種だとの事。一匹では物にならぬと11月初め昨年の場所へ行つて隈なく探がしたが遂に見當らなかつた。今

第1圖　アンネンムナアカグモ
(昭和13年12月12日採)

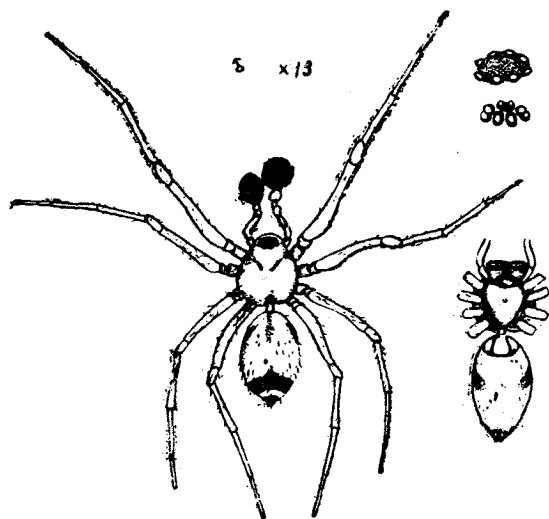
一度といふので同じく11月24日に出向いたが，柳の下の鰌の譬の如く無爲にして殘念乍ら歸つてきた。然るに翌25日，一生徒が校庭で捕へきしたと持つて來た十數匹の蜘蛛の中に♀一匹待望のものがゐた。「第二匹目を得たぞ」と思はず生徒共々快哉を叫んだ。併し二匹共♀である。♂を何とか得たいものと採集に拍車を掛けた。發明とか發見とかいふものは常に偶然のものである。明けて昭和15年秋，學校では二千六百年の記念事業の一として弓道場新設が決定された。學校の施設は常に職員生徒直接汗の力で建設されてこそ眞に吾等のものになり之を生かし利用し得るものであると主張し，その建設を引き受けた。生徒は川原より砂と砂利を運搬する。小生と今一人の職員でコンクリート作業を引き受けた。設計を立て測量に地均しに型枠作製にコンクリート練りに，秋の短

い放課後を毎日あてられた。其の作業中，型枠外しをやつてゐる時天我が勤勞を嘉みして與へしか，足下の石の上を這ふ第三匹目を得た。而も♂，時は昭和15年10月31日である。尙習性の研究をすべき仕事が殘つてゐるが以上の如く發見が少い上に到つて小體である。未だに何等報告の材料を有せぬを遺憾とする。

II *Oedothorax melanopygus* Kishida (MS.)

スソグロムナアカグモ (第2圖)　　サラグモ科

1. 形　態

體長 2mm. 頭胸部 0.8mm. 腹部 1mm. 腹柄 0.2mm. 第一脚 2mm. 第二脚 2mm. 第三脚 1.8mm. 第四脚 1.8mm.

第2圖　スソグロムナアカグモ
(昭和13年12月12日採)

全身褐色にして光澤あり，アカアリによく似た形をなす。頭胸部は倒心臟形，背面は中凸滑滑，胸板は心臟型，單眼8個2列，第一列は前彎，第二列は稍ゝ後彎，前中眼は小，他は同大，前後の側眼は相接す。腹部は楕圓形にして腹端稍ゝ尖る。心臟斑は中央部に暗色に見え，前兩側及び後端に黑橫條あり，粗毛を生じ，紡扰は6個腹後端にあり，後方に突出す。

2. 採集月日及採集地

昭和13年12月12日	富山縣中新川郡早月加積村	1 ♂
昭和14年11月24日	富山縣下新川郡下中島村吉野	11 ♀♂

3. 採集記錄

前種と同樣，最初の採集は冬季好晴の遠足の際，人家近き石垣の石で♂一匹

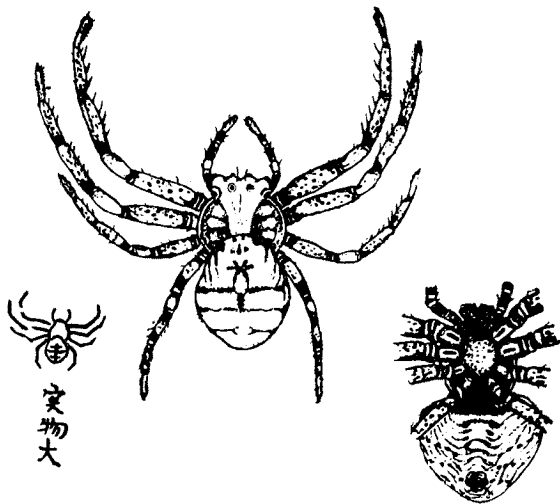
採集したもので，前種同様岸田先生に命名して戴いたものである。翌年の今一度の採集行の際，前種發見場所よりも數町北方，人家の側の無花果の下の塵捨場を探した際，2—3本の糸を落葉の下に張つて其の附近に徘徊せしものを♀♂11匹も得たので岸田先生に♀♂1對御送りしたのであつた。其の後未だ採集せず。

III *Xysticus trizonatus* Kishida (MS.)

オビボソカニグモ（第3圖）　　カニグモ科

1. 形　態

體長5mm. 頭胸部2.5mm. 腹部3.5mm. 第一，二脚6mm. 第三脚4mm. 第四脚3.5mm.

頭胸部は幅廣く，腎臓形，頭部は前方に突出し，額面は一直線をなす。單眼は2列8個，第一列は一直線をなし，稍〻第二列眼に比し小。前中眼は前向し，前側眼は前側向す。第二列は前彎，後中眼は上向，側眼は後側向す。淡灰褐色にして放射線明かに現はる。胸板は心臓型にして紫黑色，割合に小さく凹斑散在す。腹部は灰褐色，稍〻菱形をなし，背面は平にして腹後半に横溝3を見る。腹下面は平行溝多數ありて斜走す。而して凹點列三，斜走す。紡疣は腹下面後方より5分の1位の位置にありて6個。第一，二脚は大にして强靱，各節の後端に黑斑あり，短毛生ず。脛，蹠節内側に棘毛3—5一列に列ぶ。第三，四脚は小なり。

第3圖　オビボソカニグモ
(昭和14年9月22日採)

2. 採集月日及採集地

昭和14年9月22日　　　　富山縣中新川郡大岩村

3. 採集記錄

青少年學徒に賜りたる勅語奉戴記念日なる毎月の22日には 40 km 强歩會が行はれてゐた。9月の例會には魚津町より西南5里なる大岩村の不動堂に決定された。生徒と共に行き晝食をとりてより，樹間や山崖の草間を探索したり，不動堂の緣の下等を探し數種數十匹を得た。其の中本種は不動堂の緣の下で得たものである。信者の木魚の音を頭上に聞き乍ら床下では蜘蛛捕獲といふ地獄相さながらなるを思ひ微苦笑禁じ得ないものがあつた。之は蜘蛛網の中央に糸で卷きつけられた餌だと思ひ乍らよく見ると1匹の蜘蛛の捕虜であつた。歸校後糸を解いて寫生せんとすると動き出した。扨ては生き乍らにして縛られ身動きも出來ず，やがて毒鉤を受けて好餌とせられる所を小生によつて約一日壽命が延びたのであつたか。それにしても蜘蛛の世界における爭鬪の劇しかりしを想起せしめる。其の後何回も探せしも，未だに得るに至らず遺憾に思ふ次第である。

鐘乳洞内の蜘蛛類

1939, 40兩年に於いて，下記數個所の石灰洞內の生物を採集する機會を得た。その中蜘蛛類は高島春雄氏の御厚意によつて植村利夫氏に同定して戴くことが出來た。兩氏に對し深謝する。

〔1〕 愛知縣八名郡石卷村蛇穴 (IV. 1940)

Bansaia nipponica Uyemura　カチドキグモ　（ミヅグモ科）

〔2〕 山口縣美禰郡秋吉村秋芳洞 (26. VIII. 1940)

Theridion akiyoshiensis Uyemura　アキヨシヒメグモ　（ヒメグモ科）

Simonius typicus Kishida　シモングモ　（イウレイグモ科）

〔3〕 德島縣那賀郡大龍寺龍窟 (25. XII. 1939)

Theridion akiyoshiensis Uyemura　アキヨシヒメグモ

Chiracanthium sp.　コマチグモ一種（幼）（フクログモ科）

〔4〕 高知縣高岡郡日下村猿穴 (29. XII. 1939)

Bansaia nipponica Uyemura　カチドキグモ

以上の如く甚だ少數の種に過ぎないが，他の生物と同様に出現種が限定される傾向のあ